

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12198

研究課題名（和文）急性期病院におけるせん妄ケアの質評価指標の開発

研究課題名（英文）Development of the care quality assessment indicators for patients at risk of delirium in acute care settings

研究代表者

長谷川 真澄（Hasegawa, Masumi）

札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：80315522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：せん妄への介入研究のアウトカムは、せん妄発症率、入院期間、医療コストなど管理的指標を用いることが多い。しかし、急性期医療を受ける患者のせん妄をすべて予防することは難しい。そこで本研究では、入院患者のせん妄の予防や回復に向けて、看護師が実践するケアの質を評価する指標を開発することを目的とした。

最初に、エスノグラフィの手法を用いて、看護師が日常行っているせん妄リスクのある患者への看護実践を記述した。この研究成果に基づき、せん妄リスクのある患者へのケアの質評価指標を作成した。一般病床の看護師を対象とするパイロットスタディ、本調査の分析結果から、開発した評価指標の信頼性・妥当性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急性期医療を受ける患者のせん妄は、複合的な要因で突然に発症する。そのため看護師にとってせん妄は、短時間での判断や対応を求められる難易度の高いケアである。これまで看護師がせん妄の予防や回復のために実践する看護ケアについて、ケアのプロセスに沿って点検する指標がなかった。本研究で開発したせん妄ケアの質評価指標を用いて、看護師が日頃の実践を評価し、検討することで、せん妄ケアの質向上に貢献することが期待できる。

研究成果の概要（英文）：Intervention studies for delirium often use administrative indicators including delirium incidence, length of hospital stay, and healthcare costs as research outcomes. However, prevention of all delirium in patients in acute care settings is difficult. This study aimed to develop indicators to assess the quality of nursing care performed by nurses in prevention and recovery from delirium in inpatients.

First, using ethnographic analysis, we described the daily nursing activities practiced by nurses for patients at risk of delirium. Based on the results of this study, we created question items of care quality assessment indicators for patients at risk of delirium. Analysis of the data from a pilot study with general ward nurses and the data from the present study showed the reliability and validity of the care assessment indicators. This indicators may be used as assessment effect for intervention research and continuing education of nurses.

研究分野：老年看護学

キーワード：せん妄 ケアの質 評価指標 入院患者 急性期医療 予防ケア 高齢者

## 1. 研究開始当初の背景

せん妄は全般的な認知機能が一時的に障害される意識障害であり、急性期の治療や手術を受ける高齢者や認知症者、終末期患者などに発症頻度が高いことが知られている。せん妄は脱水、低酸素血症、感染症、肝不全、腎不全などの身体因子や薬物副作用により生じる一過性の脳機能低下が直接原因であり、さらに、環境変化、不動、疼痛、睡眠障害などの誘発因子が関連して発症する。せん妄の予防や改善には、これらの発症因子を取り除く多因子同時介入が効果的であると言われている (Inouye, 1999)。近年、欧米では、多職種チームによる複合的介入によりせん妄発症率の低減、医療コストの削減効果が報告されている (Rubin, 2011)。

わが国でも入院患者のせん妄対策として、老人看護専門看護師や認知症看護認定看護師を中心に多職種チームが結成され、せん妄患者への対応や予防の取り組みが組織的に行われる施設がでてきている (森山, 2011; 赤井, 2012)。これらのせん妄対策チームがどのようにチームを構築し運営しているかを明らかにするために研究代表者らが行った研究では、チームとしての活動効果について、入院患者のせん妄を全て予防するのは難しく早期発見や重症化の回避に留まること、客観的データは示されていないことが課題として示された。一方、チームメンバーからは、チーム活動により医療スタッフのせん妄に関する意識やケアの内容、患者の反応に良好な変化を実感していることが語られた (長谷川ら, 2017)。先行研究におけるせん妄の介入研究のアウトカムは、せん妄発症率、ADL レベル、入院期間、再入院率、死亡率、医療コストなどが設定されているが、せん妄ケアのプロセスに沿った質評価指標は開発されていない。したがって、急性期病院で取り込まれるせん妄対策のケアの質を客観的に評価する指標を明確にする必要がある。

一方、せん妄を体験した患者は、せん妄発症期間中、不安、恐怖、孤独などの苦痛を体験していることが報告されている。村田 (2014) は、現象学的アプローチによるせん妄患者の苦痛体験について、患者が置かれている客観的状況と、その人の主観的な想い・願い・価値観とのズレが、その人の苦しみを構成すると述べている。また、せん妄患者は入院中の物理的・人的環境に対して否定的、敏感に捉える傾向があり、環境認知から引き起こされる不快感情、緊張、不安などがせん妄発症に影響することが示唆されている (粟生田ら, 2007)。さらに、せん妄患者や家族は、せん妄発症時に安全管理の目的で実際される身体拘束や、医療者の説明、対応に不信感を抱く場合もある。したがって、高齢者とその家族がせん妄に絡み受けたケアに対しどのように捉えているかという視点からも評価する必要がある。

そこで本研究では、入院患者のせん妄の予防や発症時の対応に関する組織的な取り組み効果を、ケアのプロセスに沿った評価およびケアを受けた患者・家族の視点から包括的に評価するせん妄ケアの質評価指標の開発に取り組むこととする。

## 2. 研究の目的

本研究は、急性期医療を受ける高齢患者とその家族の視点を含む包括的なせん妄ケアの質評価指標を開発することを目的とした。

## 3. 研究の方法

目的達成のために、以下 (1) ~ (3) の段階により研究を実施した。

### (1) せん妄リスクのある患者への看護実践のエスノグラフィ研究

エスノグラフィの手法を用いて、看護師が日常行っているせん妄リスクのある患者への看護実践を記述し、そこからせん妄ケアの核となる文化的テーマを特定することを目的とした。

一般病院 2 施設の看護師 9 名を対象として、せん妄リスクのある患者への看護実践場面を参加観察し、その後、半構造化インタビューを行った。参加観察のフィールドノートおよびインタビュー逐語録をデータとして、Spradly (1980/2010) の分析手法に則り分析した。

### (2) せん妄ケアの質評価指標案の開発

研究 (1) の成果および先行研究に基づき、せん妄リスクのある患者へのケアの質を評価する指標の項目案を作成し、精選することを目的とした。

研究 (1) の成果を基盤に、既存のせん妄ケアのガイドラインを参考にして【アセスメント】2 要素 9 項目、【せん妄ケア】4 要素 38 項目、【連携】2 要素 8 項目の計 55 項目で、せん妄ケアの質評価指標原案を構成した。専門家 8 名による内容妥当性の評価を行い、一部項目の表現を修正した。次に、一般病棟に勤務する臨床経験 1 年以上の看護師を対象に Web 調査によるパイロットスタディを実施した。調査内容は、せん妄リスクのある患者に実施している看護を想起してもらい、評価指標原案 55 項目について、「必ず行っている」~「全く行っていない」の 5 段階から、自身の実践にもっとも近いものを選択してもらった。対象者の属性として、看護師経験年数、せん妄患者への対応頻度、過去 3 年間のせん妄ケアや認知症ケアの研修受講有無などを含めた。

収集したデータは、天井効果・床効果の確認、Item-Total 相関分析、Good-Poor 分析、探索的因子分析を行った。これらの分析結果全体を見渡し、因子負荷量 0.4 以下の項目の除外を検討した。統計解析には IBM SPSS statistics ver.26 を使用した。

### (3) せん妄ケアの質評価指標修正案の信頼性・妥当性の評価

研究(2)の成果に基づき、せん妄ケアの質評価指標修正案の信頼性・妥当性を評価することを目的とした。

一般病棟に勤務する臨床経験 1 年以上の看護師を対象に Web 調査を実施した。調査内容はせん妄ケアの質評価指標修正案 46 項目について「必ず行っている」～「全く行っていない」の 5 段階で回答してもらった。また、基準関連妥当性の評価のために、開発者(天木ら, 2017)の許可を得て「総合病院における認知症看護の質評価指標短縮版」20 項目について回答してもらった。対象者の属性はパイロットスタディと同様の質問項目とした。さらに、安定性評価のための再テストは、最初の回答から 2 週間後にせん妄ケアの質評価指標修正案 46 項目について回答してもらった。分析は、信頼性の評価としてクロンバック 係数により内的整合性を確認し、再テストのデータを用いて級内相関係数を算出した。妥当性の評価は、探索的因子分析で KMO の標本妥当性、Bartlett 球面性検定を確認した。基準関連妥当性の評価は、両尺度の下位尺度得点の相関分析を行った。また臨床経験年数、せん妄ケアおよび認知症ケア研修の受講有無による比較を行った。統計解析には IBM SPSS statistics ver.26 を使用した。

## 4. 研究成果

### (1) せん妄リスクのある患者への看護実践のエスノグラフィ研究

臨床経験 5~29 年(中央値 16 年)の看護師 9 名を対象に、13 名のせん妄リスクのある患者の看護援助場面の参加観察とインタビューを行った。分析の結果、せん妄リスクのある患者への看護実践として 7 つの構成要素が構造化され、せん妄ケアの核となる文化的テーマとして「患者にとってストレスになるものを予測し、安楽に過ごせるようにする」が特定された。せん妄リスクのある患者への看護実践は、患者に安心感をもたらす関係を築く働きかけとチームで情報を共有し対応することを基本としつつ、患者の普段の生活や体の自然なリズムを維持し、ストレスを回避あるいは軽減するケアを中心に据え、せん妄リスクを予測し、発症時はせん妄症状から回復を促す援助を行っていた。本研究で特定されたせん妄ケアの構造と文化的テーマから、患者を個別性のある全人的な存在としてとらえ、入院治療環境における患者のストレスや基本的ニーズをアセスメントし、患者との相互作用を基盤にしながらか安楽の増進に向けて援助することが、せん妄ケアの本質として重要であることが示唆された。これらの研究成果は、下記のとおり論文公表した。

長谷川真澄, 粟生田友子, 道信良子, 木島輝美, 鳥谷めぐみ(2021)せん妄リスクのある患者への看護実践の知 一般病院におけるエスノグラフィ研究, 老年看護学 26(1): 69-78. (日本老年看護学会 2022 年度優秀論文賞受賞)

### (2) せん妄ケアの質評価指標案の開発

8 施設 291 名の看護師のうち 123 名から回答が得られ、対象者の基準に合致しない 4 名を除き 119 名(有効回答率 40.9%)を分析対象とした。項目分析の結果をもとに質問項目の削除、入れ替えをしながら探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)を試行した結果、11 因子 46 項目が抽出された(累積寄与率 68.4%、 $\lambda_1 = .939$ )。各因子負荷量は、第 1~10 因子が  $\lambda = .725 \sim .893$  であり、第 11 因子が  $\lambda = .669$  であった。抽出された 11 因子は、先行研究で必要とされるケアや実施されているケアと概ね一致しており、せん妄ケアの質評価指標として有効である可能性が示唆された。これらの研究成果は、下記のとおり論文公表した。

鳥谷めぐみ, 長谷川真澄, 木島輝美, 粟生田友子(2023)医療機関におけるせん妄ケアの質評価指標開発のためのパイロットスタディ, 札幌保健科学雑誌 12: 29-35.

### (3) せん妄ケアの質評価指標の信頼性・妥当性の評価

全国 46 施設 1223 名の看護師のうち 544 名から回答が得られ、対象者の基準に合致しない 15 名を除き 529 名(有効回答率 43.3%)を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)の結果、最終的に 8 因子 42 項目(クロンバック  $\lambda = .954$ )を採用した。11 因子の命名は、評価指標原案作成時に用いた先行研究を参考に命名し、第 1 因子「日常性を維持するケア」10 項目( $\lambda = .889$ )、第 2 因子「安心感をもたらすコミュニケーション」4 項目( $\lambda = .839$ )、第 3 因子「チーム連携」4 項目( $\lambda = .855$ )、第 4 因子「せん妄リスクのアセスメント」6 項目( $\lambda = .827$ )、第 5 因子「苦痛・不快を取り除くケア」7 項目( $\lambda = .862$ )、第 6 因子「体のリズムを整えるケア」5 項目( $\lambda = .777$ )、第 7 因子「家族ケア」3 項目( $\lambda = .770$ )、第 8 因子「せん妄患者の言動の意味を考慮した関わり」3 項目( $\lambda = .828$ )とした。Kaiser-Meyer-Olkin 標本妥当性の測度は .949、Bartlett 球面性検定  $p < .001$  であり、因子分析の妥当性が確認された。本指標と「総合病院における認知症看護の質評価指標短縮版」との基準関連妥当性の評価では、両尺度の下位因子および全体の合計点において正の相関(下位項目間  $r = .407 \sim .699$ 、合計点  $r = .831$ )を認めた。再テスト( $n=25$ )による級内相関係数は合計点で  $ICC = .737$ (95%CI = .488 ~ .873)

であった。以上より概ね信頼性、妥当性が確保されたせん妄ケアの質評価指標が開発できた。今後の研究課題として構成概念妥当性の更なる検証および確証的因子分析が必要である。

#### 引用文献

- 赤井信太郎 (2012) せん妄対策チーム 長浜赤十字病院, 看護 64 (4) :70-74.
- 天木伸子, 百瀬由美子, 藤野あゆみ (2017) 総合病院における認知症看護質評価指標短縮版の作成と信頼性・妥当性の検討, 日本看護福祉学会誌 22 (2) : 31-43.
- 粟生田友子, 長谷川真澄, 南川雅子ほか (2007) 一般病院に入院する高齢患者のせん妄発症に関連する環境とケア因子の探索, 日本老年看護学会誌 12 (1) : 21-31.
- 長谷川真澄, 粟生田友子, 鳥谷めぐみ, ほか (2017) 急性期病院におけるせん妄ケアチームの構築プロセス, 日本老年看護学会誌 21 (2) : 32-40.
- 長谷川真澄, 粟生田友子, 道信良子, 木島輝美, 鳥谷めぐみ (2021) せん妄リスクのある患者への看護実践の知 一般病院におけるエスノグラフィ研究, 老年看護学 26 (1) : 69-78.
- Inouye SK. et al. (1999) A Multicomponent Intervention to Prevent Delirium in Hospitalized Older Patients, N Engl J M, 340: 669-676.
- 森山祐美 (2011) 「せん妄回診」の実施とその効果, 看護管理 21 (3) : 224-227.
- 村田久行, 長久栄子編著 (2014) せん妄, 日本評論社, p15-17.
- Rubin FH, Neal K, Fenlon K, et al. (2011) Sustainability and scalability of the hospital elder life program at a community hospital. J Am Geriatr Soc 59(2): 3599-365.
- Spradley JP (1980) / 田中美恵子, 麻原きよみ監訳 (2018) 参加観察入門, 医学書院, 東京
- 鳥谷めぐみ, 長谷川真澄, 木島輝美, 粟生田友子 (2023) 医療機関におけるせん妄ケアの質評価指標開発のためのパイロットスタディ, 札幌保健科学雑誌 12 : 29-35.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鳥谷めぐみ、長谷川真澄、木島輝美、粟生田友子	4. 巻 12
2. 論文標題 医療機関におけるせん妄ケアの質評価指標開発のためのパイロットスタディ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 札幌保健科学雑誌	6. 最初と最後の頁 29～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15114/sjhs.12.29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 粟生田友子	4. 巻 60
2. 論文標題 せん妄の看護/せん妄ケアにおける包括的な療養の視点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriat.Med.	6. 最初と最後の頁 803～807
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長谷川 真澄、粟生田 友子、道信 良子、木島 輝美、鳥谷 めぐみ	4. 巻 26
2. 論文標題 せん妄リスクのある患者への看護実践の知	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 老年看護学	6. 最初と最後の頁 69～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20696/jagn.26.1_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷川真澄	4. 巻 17
2. 論文標題 認知症高齢者におけるせん妄のアセスメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 664～670
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 長谷川真澄
2. 発表標題 せん妄リスクのある患者への看護実践の知
3. 学会等名 日本老年看護学会第28回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masumi Hasegawa, Megumi Toriya, Terumi Kijima, Tomoko Aohda
2. 発表標題 Development of the Self-Report Scale of Delirium Care
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatric-Asia/Oceania Regional Congress 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川真澄
2. 発表標題 急性期医療におけるせん妄ケアの実践知
3. 学会等名 第10回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川真澄、鳥谷めぐみ、木島輝美、粟生田友子
2. 発表標題 せん妄ケアの質評価指標の検討
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masumi Hasegawa, Tomoko Aohda, Ryoko Michinobu, Terumi Kijima, Megumi Toriya
2. 発表標題 Holistic care for patients with risk of delirium in acute care hospitals in Japan.
3. 学会等名 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木島輝美、長谷川真澄、鳥谷めぐみ、粟生田友子、道信良子
2. 発表標題 せん妄ケアの実践知を探る 急性期病院の看護師を対象とした参加観察とインタビューを通して
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 泉キヨ子、小山幸代	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 356
3. 書名 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術第4版	

1. 著者名 香春 知永	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 376
3. 書名 基礎看護学[4] 臨床看護総論 第7版	

1. 著者名 山田 律子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 560
3. 書名 生活機能からみた 老年看護過程 第4版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	粟生田 友子 (Aohda Tomoko) (50150909)	埼玉医科大学・保健医療学部・教授  (32409)	
研究分担者	道信 良子 (Michinobu Ryoko) (70336410)	札幌医科大学・医療人育成センター・准教授  (20101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	鳥谷 めぐみ (Toriya Megumi) (00305921)	札幌医科大学・保健医療学部・講師  (20101)	
連携研究者	木島 輝美 (Kijima Terumi) (40363709)	札幌医科大学・保健医療学部・講師  (20101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------